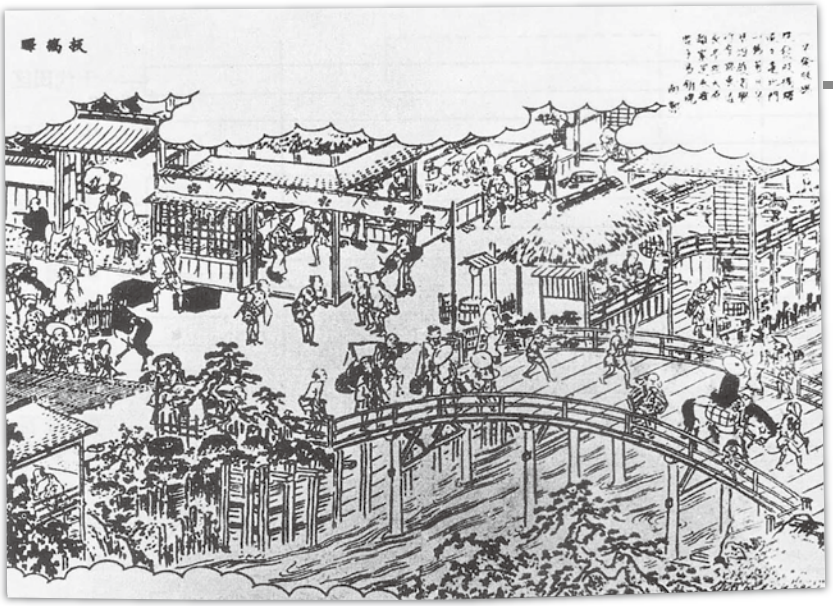
二三男くんの未来日記

板橋区

「ものづくりの板橋」の魅力発信で交流人口増加を

歴史・文化を通じて過去を継承し、未来を創造



江戸の玄関口として賑わった江戸時代の「板橋」

「板橋という地名の由来が本物の橋だったといわれているとは知らなかった」

今月の二三男くんは早くも板橋区役所で予習してきました。区政情報コーナーで『板橋区人口ビジョン及び総合戦略２０１９』を隅から隅まで熟読してきました。そして、まずは「板橋」発祥の地を目指して、旧中山道を歩いてきたのです。

「板橋宿」は日本橋を基点に中山道第１番目の宿場町として発展してきました。この辺りには加賀藩前田家の下屋敷があるなど、北陸・上信越方面の交通の要所、江戸の玄関口として賑わっていました。「板橋」は石神井川に架かる中山道の橋で、江戸時代には長さ９間（16・2メートル）、幅３間（５・４メートル）の太鼓橋でした。

１９３２（昭和７）年に「板橋」はコンクリート製の橋に架け替えられ、同年10月に板橋区が誕生しました。かつての宿場町は商店街に姿を変えましたが、今でも周辺には多くの名所や史跡が残されており、歴史の面影に触れることができます。

二三男くんがわざわざ旧中山道を歩いてきたのには理由がありました。

人口総数の急激な減少は避けたい

板橋区の総人口は１９７０～１９９０年初頭まで緩やかに増加し、１９９０（平成２）年から１９９５（平成７）年にかけていったん減少に転じたものの、近年は再び緩やかな増加傾向が続いています。生産年齢人口（15～64歳の人口）や年少人口（０～14歳の人口）が減少傾向にある一方で、老年人口（65歳以上の人口）は、平均寿命の伸びなどを背景に一貫して増加が続き、１９９５（平成７）年には年少人口を上回りました。

総人口が、長期的に増加し続けることは難しいと考えられ、今後、地域の活力を維持するためにできる限り人口総数の急激な減少を避け、緩やかに推移するよう施策に取り組むことが必要です。また、特に地域の活力の主たる担い手となる若い世代が地域に住み続けられる環境を整備

区内外から大勢の人たちが訪れる

板橋区の4大イベント

▶板橋農業まつり

▼板橋Cityマラソン

▲板橋区民まつり

◀いたばし花火大会

するとともに、近隣・隣接する地域の中で人々に選ばれるまちとして、板橋区の魅力を高めることが必要です。

二三男くんは「板橋区の魅力って、いったい何だろうか。少子高齢化社会においても、区の魅力に惹かれて多くの人たちが訪れ、この街に住もうと思ってくれるには、どうしたらいいのかな」と疑問がわきました。

三つの戦略目標

『総合戦略』には、次の三つの戦略目標が立てられています。

「戦略目標Ⅰ　地域産業の活性化と安定した雇用の創出」では、企業誘致や新規創業の促進、立地環境の充実などにより、地域産業の活性化の支援や若い世代の安定した雇用の創出を目指します。また、多様な世代や立場の人に対する就労を支援するとしています。

「戦略目標Ⅱ　安心して子どもを産み育てられるまちづくり」では、地域団体、事業者、大学などとの連携により、板橋区で安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整備します。仕事と家庭の両立などライフスタイルに応じて子どもを育てることができ、ゆとりを持った生活を送れるよう関係機関との調整に努めるとしています。

「戦略目標Ⅲ　都市の連携・再生と超高齢社会に適応した社会づくり」では、駅周辺の安心・安全、にぎわいの創出などを図るとともに、都心へのアクセスの良さを活かしたまちづくりを進めるなどとしています。

二三男くんが特に注目したのは、「戦略目標Ⅲ」です。

歴史・文化を次世代に継承

「戦略目標Ⅲ」では、目標を達成する手段の一つとして「都市連携・交流の推進」を掲げています。

ここでは、「いたばし花火大会」「板橋区民まつり」「板橋農業まつり」「板橋Ｃｉｔｙマラソン」の４大イベントの魅力をさらに高めるとともに、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、芸術や異なる文化に触れる機会の拡充を図り、さらなる誘客の促進を図るとしました。

また、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会によって期待されるインバウンド（外国人の訪日）の増加を契機として、ボランティアの養成や多言語対応など「もてなしの心」による、まちの魅力創造・発信に取り組むと述べています。

さらに、国内外の交流都市や特別区全体として取り組んでいる特別区全国連携プロジェクトなどを通じて、都市連携を深め、人や産業などの交流をさらに促進し、お互いに共存共栄を図ることとしています。

板橋区の４大イベントは、区内外から大勢の人たちが集まり、魅力発信のチャンスとなっています。

「いたばし花火大会」は、東京最大の大玉「尺五寸玉」が上がり、関東最長クラスを誇る「大ナイアガラの滝」が見られる夏の風物詩。板橋区と埼玉県戸田町（現戸田市）との間で境界変更が行われたのを記念して、１９５０（昭和25）年に「戸田橋花火大会」として開催されたのが始まりで、長い歴史を持つイベントです。また20回以上の歴史を持つ「板橋Ｃｉｔｙマラソン」は、２０１５（平成27）年から開催されている「金沢マラソン」との連携・協力により、板橋区・金沢市両都市の交流の場となっています。

こうしたイベントだけでなく、日本全体が人口減少社会を迎える中で、多くの人たちに訪れてもらい、住んでもらう板橋区を目指さなければなりません。

二三男くんはそのために区がどんな取り組みを進めようとしているのか知ろうと思いました。

「ものづくりの板橋」発祥の地

二三男くんは石神井川に沿って「板橋」から下流に向かって歩きました。

加賀藩下屋敷が置かれた地域は、明治時代以降、板橋火薬製造所をはじめとする陸軍造兵廠（しょう）が形成され、板橋区のものづくりの中心となった場所の一つです。

造兵廠は明治から昭和にかけて度重なる組織変更と用地拡張が行われ、二三男くんのいた時代、１９４０（昭和15）年には北区側が東京第一、板橋区側が東京第二陸軍造兵廠として分離改変されました。終戦後は陸軍解体に伴い、広大な敷地が研究所や大学などの文教地区や中小の工業用地、住宅地となりました。

板橋区役所で二三男くんは、この場所の一角に史跡公園が整備されることを知りました。

板橋区は、加賀１丁目に所在する「加賀公園」「旧野口研究所」「旧理化学研究所板橋分所」一帯を近代化・産業遺産として、その歴史的な背景や重要な文化財としての価値を認め、史跡公園として整備することを決めたのです。

石神井川の桜並木をくぐると、加賀公園にたどりつきました。この周辺が史跡公園として整備されます。陸軍造兵廠だった時代しか知らない二三男くんは、緑豊かな公園や閑静

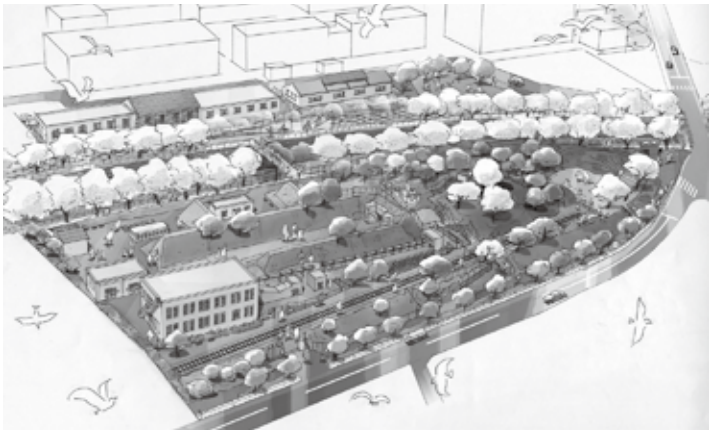
石神井川沿いの桜並木

な住宅街に変貌した地域を見て感慨深げです。

ここにしかない歴史を通じて

明治時代から昭和初期にかけて加賀地区に形成された近代的な火薬製造所と研究施設、戦後、日本の頭脳が集った理化学研究所などは、都内有数のものづくりの拠点として発展していったばかりでなく、日本の産業や科学技術の発展に寄与し、近代化に大きく貢献してきました。史跡公園として整備するエリアの中央を流れる石神井川は、過去には交通路としての活用だけでなく、火薬製造所の動力源として利用され、現在では川沿いの桜並木とともに四季が織りなす景観が多くの人々に憩いをもたらしています。

板橋区はこの史跡公園の基本コンセプトを、「板橋の歴史・文化・産業を体感し、多様な人々が憩い、語らう史跡公園」としました。ここにしかない歴史を通じて、板橋の過去と現在を知り、未来へとつなげるとともに「ものづくりの板橋」としてのブランド力の向上・定着と新たな魅力の創出を目指しています。



史跡公園のイメージ図

２０１７（平成29）年10月には、陸軍板橋火薬製造所跡は、国の史跡に指定されました。史跡公園は２０２１年度に公園整備が着工され、２０２４年度のグランドオープンを目指しています。完成すれば、近代化・産業遺産を保存・活用した都内初の史跡公園となります。

旧中山道板橋宿は、ＪＲ板橋駅から環七通りまで約２・４キロにわたって商店街が続き、賑わいを見せています。旧中山道の平尾の追分で分岐している旧川越街道も、東武東上線の大山駅まで商店街が連なり、大山駅を利用して板橋区役所や文化会館へ向かうルートとして区民に親しまれています。大山駅の南側には５６０メートルのアーケードを持つ「ハッピーロード大山商店街」があり、区内最大のショッピング街となっています。こうした商店街の賑わいと、史跡公園周辺の自然豊かな静寂感とのコントラストがこのエリア全体の大きな魅力となっています。

また、このエリア内には加賀藩下屋敷が置かれたというゆかりから、現在も地名をはじめ学校や橋の名前に「金沢」や「加賀」といった名を残している地域があり、板橋区と石川県金沢市との交流の足掛かりとなっています。

そして特に加賀地区に整備される史跡公園は、板橋の魅力の新たなシンボルとなり、この周辺が板橋の魅力発信の拠点となるでしょう。

板橋区の魅力を発信する拠点に

板橋区役所を出て、旧中山道の商店街を抜けて、石神井川沿いを歩き、国の史跡に指定された近代化遺産を見てきた二三男くんは、過去を継承し、未来へと向かおうとする板橋区が誇りに思えてきました。

二三男くんは「僕のいた時代の産業施設が近代化遺産の遺構として、70年後の現代に板橋の魅力の新たなブランドとして活用され、未来へ継承していこうという区の姿勢に感動した。陸軍造兵廠があった頃は戦争で暗い時代だったけれど、戦前から戦後にかけてここでものづくりの研究や開発が行われ、日本の産業に大きな進歩をもたらしてきた。その場所が、公園や学校、住宅が並ぶ地域になり、近代化遺産を活用した史跡公園ができる。ここを拠点に板橋区の魅力を発信すれば、板橋区のブランド力も高まり、たくさんの人が板橋区を訪れ、ここに住んでみたいという人も増えるかもしれない」と期待をふくらませました。

朝から歩いてばかりいた二三男くんは、「お腹が空いたから商店街でお昼御飯を食べようかな」と、買い物客で賑わう商店街へと小走りで向かいました。

取材協力／板橋区